

平成20年2月26日

福岡県医師会
会長 横倉 義武 殿

福岡県医師会
診療報酬検討委員会
委員長 津田 泰夫

答 申(案)

診療報酬検討委員会では、貴職からの諮問『保険診療における問題点の抽出及び検証について』特に、1)平成18年4月実施の診療報酬改定における問題点
2)保険診療上の問題点について、この度、委員会の見解を別紙のとおり取りまとめたので、答申する。

診療報酬検討委員会

委員長	津 田 泰 夫
副委員長	宇 野 卓 也
委員	秋 田 章 二
	伊 東 清 四 郎
	井 上 仁 人
	岡 山 昌 弘
	片 瀬 高
	神 代 龍 之 介
	杉 健 三
	寺 澤 正 壽
	原 文 彦
	馬 郡 良 英
	山 岡 春 夫

(委員50音順)

診療報酬検討委員会答申書

平成20年3月

福岡県医師会診療報酬検討委員会

諮問：『保険診療における問題点の抽出及び検証について』

特に、

- 1) 平成 18 年 4 月実施の診療報酬改定における問題点
- 2) 保険診療上の問題点

平成 18 年 6 月 15 日付けで、福岡県医師会横倉義武会長より諮問のあった件に関し答申する。

福岡県医師会において、診療報酬検討委員会は、新規委員会であり、以前は医療政策委員会という名称で行われており、この委員会からは 4 年ぶりの復活となる。その目的、運営に関して、手探りの部分があったが平成 18 年度第 1 回委員会（平成 18 年 6 月 15 日）においては、まず懸案であった療養病床削減をめぐる緊急課題とその対応、また今後検討すべき課題について議論した。

療養病床に関する調査研究はすでに福岡県メディカルセンター保健・医療・福祉研究機構（医福研）が着手しており、その後もこの問題については医福研が取り組む形となった。

後期高齢者医療制度に関しては「保険」というより「保障」であるべきではないかという根幹に関わる議論がなされた。

さらに、検討すべき課題として、以下の 4 点があげられた。

1. 療養病床 ADL 区分の評価
2. リハビリテーション算定に関すること
3. 7 対 1 看護について
4. 在宅医療に関すること

これらを踏まえて、平成 18 年度第 2 回委員会（平成 19 年 3 月 27 日）が開催され、20 年度診療報酬改定に関する要望事項について次の 10 項目に集約した。

国民の安全・安心な医療確保のための診療報酬プラス改定 初診料再診料引き上げ 医療廃棄物処理費用に対する新たな点数設定 特定疾患療養管理料対象疾患の拡大 7 種類以上投薬時の処方料の減算廃止 手術料の増点数 7 対 1 看護、夜勤 7 2 時間通則の見直し 医療療養病棟の入院基本料の見直し 有床診療所入院基本料の引き上げ リハビリテーション算定日数上限の廃止

他には、医療現場での保険診療上の問題点解決の一方策として、保険診療に関する手引書の作成が平成 18 年度第 2 回委員会で決定された。会員に保険診療の基本とルールを理解していただき、審査に於ける無駄な査定予防や、自己決定・自己責任の原則のもと、妥当適切な保険診療、保険請求が円滑に行なわれるよう会員の手助けとなることを主旨とした福岡県医師会独自の保険診療の手引き書を作成することである。また、このことにより従来から指摘されている保険審査における格差の問題が少しでも改善されることを期待するものであ

る。保険診療の手引書作成に関しては、平成 19 年度第 1 回委員会（平 19 年 5 月 29 日）において診療報酬検討委員会の中に 7 名の委員からなる小委員会を組織し概ね月に 1 回の編集会議を行なうこととなった。平成 20 年度診療報酬改定も盛り込めるような時期に完成を目指すこととした。併せて第 3 回委員会（平成 19 年 11 月 27 日）では、福岡社会保険事務局の医科集団指導用資料も参考とし、各専門医会、支払基金、国保連合会、社会保険事務局、国保援護課の協力も得て平成 20 年 11 月頃の完成を目指すこととなっている。